

※ ②～⑥までは、感染症の流行状況等によって変更されることがある。民間事業者が実施するのは、①⑦⑧となる。
③については保健所等が実施する場合がある。

図1 民間事業者による感染症患者移送の基本的な流れ

移送に関する協定等を行政(保健所等)と締結

患者発生

行政(保健所等)(※)より移送の依頼 ※契約内容によっては外来診療施設等から直接連絡が入る場合もある。

患者の状況及び移送先を確認

移送車両の準備、必要物品の用意、状況に合わせて個人防護具(PPE)の装着

患者の居所に迎え

患者の状況を確認

患者の安全を確保し感染対策をしつつ移送

指定された医療機関に到着

救急外来等の入口で医療機関担当者に患者を引き継ぎ ストレッチャー等の乗り換え

引き継ぎ終了後に屋外でPPEの脱衣 使用済みのPPE等は所定の容器もしくはビニール袋に入れて密閉

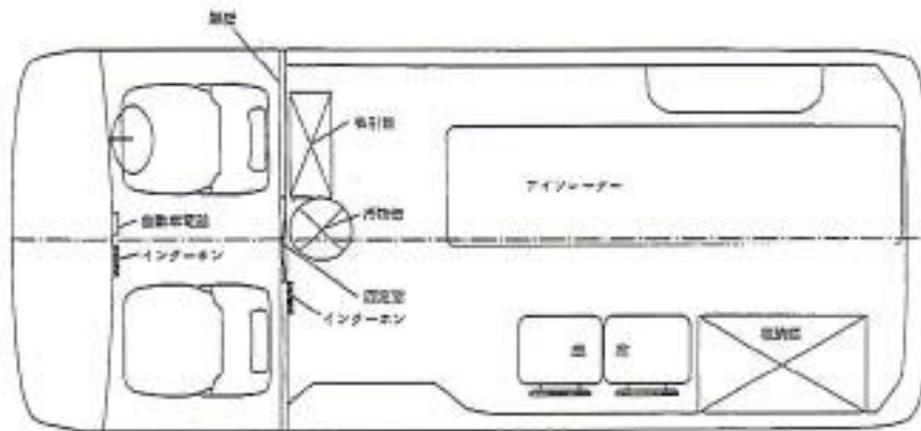
汚染がないことを確認し手指消毒後に乗車

事業所に帰着

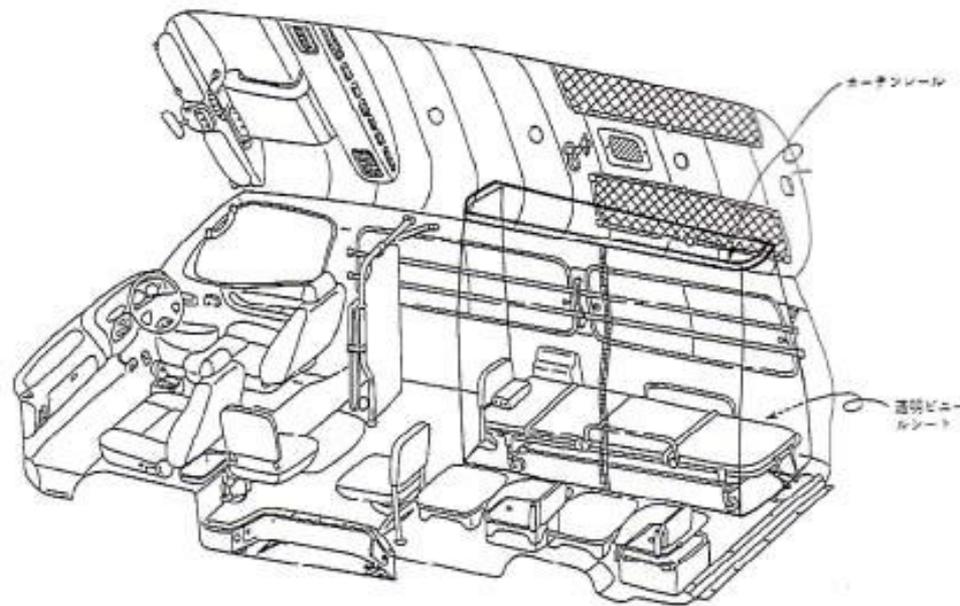
健康観察 行政(保健所等(状況によっては医療機関等))に状況を報告、必要に応じて受診

終了

図2 感染症患者の移送における民間事業者のフロー



室内架装例



感染症の患者の移送の手引きについて(平成16年3月31日付健感発第0331001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知) より抜粋

図3 感染症専用の車両及び現在の救急車等を改造した場合のモデル

表 感染症患者の移送に関する基本的な考え方のポイント

基本的な考え方のポイント	内容
患者の安全の確保	• 適切な資機材による移送
	• 緊急時の適切な対応
	• 人権への配慮
移送従事者等の安全の確保	• 基本的な感染症対策
	• 病原体の特性に応じた感染拡大防止対策
	• 移送従事者の感染防止対策

消毒薬の抗微生物スペクトラム

分類	定義	芽胞	ウイルス	糸状真菌	結核菌	酵母様真菌	一般細菌
高水準消毒	全ての微生物を死滅させる(芽胞多数を除く)	←			グルタラル製剤 フタラル製剤 過酢酸製剤		→
中水準消毒	結核菌、栄養型細菌、一部のウイルス、一部の真菌を死滅するが、必ずしも芽胞を殺滅しない		←		次亜塩素酸Na製剤 アルコール製剤 ポピドンヨード製剤		→
低水準消毒	ほとんどの栄養型細菌、ある種のウイルス、ある種の真菌を殺滅する					両性界面活性剤	→
						クロルヘキシジン製剤 第四級アンモニウム製剤	→
			←		熱水		→

- アルコール製剤は、**エンベロープウイルス(脂質膜を含む)**: インフルエンザウイルス、ヘルペスウイルス、コロナウイルス等には有効
- **ノンエンベロープウイルス(脂質膜を含まない)**: アデノウイルス、エンテロウイルス(コクサッキーウイルス等)、ノロウイルス、ロタウイルス等 に対しては次亜塩素酸ナトリウム製剤が有効

消毒薬の分類と特徴

分類	消毒液	作用機序 (仮説を含む)	適応対象			主な特徴及び注意点
			生体	器具	環境	
高水準消毒液	グルタラール	蛋白合成阻害	×	○	×	アルデヒドガスが発生 換気に注意
	フタラール	蛋白合成阻害	×	○	×	超音波白内障手術器具 膀胱鏡に使用禁止
	過酢酸	蛋白合成阻害 膜透過性障害	×	○	×	ゴム類劣化金属腐食性有り
中水準消毒液	次亜塩素酸ナトリウム	酵素反応阻害 蛋白変性	×	○	○	金属腐食性有り 酸性洗浄剤と併用禁止
	アルコール製剤	蛋白変性 代謝阻害	○	○	○	揮発に注意 創部使用禁忌
	ポピドンヨード(ヨードホール)	蛋白構造障害 脂質変性	○	×	×	塗布後乾燥 粘膜使用可
低水準消毒液	クロルヘキシジングルコン酸塩	膜透過性障害	○	○	○	粘膜使用禁忌 綿吸着性有り
	第四級アンモニウム塩 ベンザルコニウム塩化物 ベンゼトニウム塩化物	蛋白変性 膜透過性障害	○	○	○	粘膜使用可 綿吸着性有り
	両性界面活性剤 アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩	膜透過性障害	×	○	○	長時間の接触で結核菌に有効 洗浄性高い

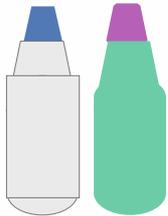
塩素消毒剤の作り方 ～ノロウイルス対策を中心に～

塩素消毒の方法

次亜塩素酸ナトリウムを水で薄めて「塩素消毒液」を作ります。
なお、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤でも
代用できます。

*濃度によって効果が異なりますので、正しく計りましょう。

	食器、カーテンなどの 消毒や拭き取り 200ppmの濃度の塩素消毒液		おう吐物などの 廃棄 (袋の中で廃棄物を浸す) 1000ppmの濃度の塩素消毒液	
	液の量	水の量	液の量	水の量
製品の濃度				
12%	5ml	3L	25ml	3L
6%	10ml	3L	50ml	3L
1%	60ml	3L	300ml	3L



- ▶製品ごとに濃度が異なるので、表示をしっかり確認しましょう。
- ▶次亜塩素酸ナトリウムは**使用期限内**のものを使用してください。
- ▶おう吐物などの酸性のものに直接原液をかけると、**有毒ガスが発生することがあります**ので、必ず「使用上の注意」をよく確認してから使用してください。

【ポイントとなる環境の清掃】

- 汚れた手が触れるところ(手すり、ドアノブ、受話器(スマホ)など)
- 飛沫が飛び散る場所(洗面所、トイレなど)

▶ 噴霧ではなく、必ず拭き上げる。

個人防護具(PPE)の着脱と廃棄(エプロン・ガウン、マスク、ゴーグル・フェイスシールド、手袋について)

1. PPE装着前の配慮

- 爪を適切に切っていることを確認する。
- 装飾品や腕時計を外す。
- 袖が邪魔にならないようにする。
(例)袖をまくり両前腕を十分に露出するなど。

2. PPEの着用

- アルコール手指消毒または衛生的手洗いをを行う。
- ガウン・エプロンを広げ、首の部分を持ってかぶる。
- 体幹部分を覆う。
- 腰ひもを後ろで結ぶ。
- 患者に接する部分は触れないように裾を広げる。
- マスクを着用する。
- ゴーグルを着用する際は、眼部を確実に覆い、ズレ・緩みがないように調整する。
- フェイスシールドを着用する際は、眼部と顔面を確実に覆い、ズレ・緩みがないように調整する。
- 手袋を左右の手に装着する。
- ガウン着用時は、手首が露出しないよう手袋で袖口まで覆う。

3. PPEの脱衣と廃棄

- 手袋の手首に近い外(そと)側を掴む。
- 手袋の外側をつまんで、片側の手袋を中表にして外す。
- 手袋を着用している手で外した手袋を持っておく。
- 手袋を脱いだ手の指先を、もう一方の手首と手袋の間に滑り込ませ、そのまま引き上げるようにして脱ぐ。
- 2枚の手袋をひとかたまりとした状態で感染性廃棄物として廃棄する。
- ゴーグルを外す際は両目の部分を左右の手で掴んで外す。
- フェイスシールドを外す際はヘッドバンドの部分を掴んで外す。
- ゴーグル・フェイスシールドの外表面、特に前面は汚染しているため、触れないように注意する。
- エプロンの首の後ろを引いて首ひもとる。ガウンの場合は片方ずつ腕を抜く。
- エプロンの上部を腰ひもの高さまで折り込む。
- エプロンの左右の紐を腰ひもの高さまで持ち上げ、患者に接する部分は触れないように外側を中にして折り込む。
- 後ろの腰ひもを切る。
- 患者に接する部分は触れないように小さくまとめる。
- 感染性廃棄物として廃棄する。
- アルコール手指消毒または衛生的手洗いをを行う。

個人防護具(PPE)の着脱の手順

着け方 ※入室前に着用すること。

1 流水下、石けんを用いて手を洗うか、目に見える汚れがなければ、擦式アルコール消毒薬で手指衛生を行う。



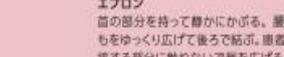
2 ガウン・プラスチックガウン・エプロンを着ける。



ガウン
ひざから首、腕から手首、背部までしっかりガウンで覆い、首と腰のひもを結ぶ。



プラスチックガウン*
首の部分を保持して静かに頭を通した後に袖を通す。覆ひもを背中側でしっかりと結ぶ。



エプロン
首の部分を持って静かにかぶる。覆ひもをゆくり広げて後ろで結ぶ。患者と接する部分に触れないで裾を広げる。



サージカルマスク
① 鼻あて部が上になるようにつけます。
② 鼻あて部を小鼻にフィットさせます。
③ 鼻あて部を小鼻にフィットさせます。鼻は全体を覆うようにします。
④ マスクのブリーツを伸ばして、口と鼻をしっかりと覆います。



N95マスク
① マスクを上下に広げ、鼻とあごを覆い、ゴムバンドで頭頂部と後頸部を固定。ユーザーシールチェック(フィットチェック)を行う。*詳細は P.70 参照

4 顔・眼をしっかりと覆うようゴーグル・フェイスシールドを装着する。



ゴーグル



フェイスシールド

5 手袋を装着する。手首が露出しないようにガウンの袖口まで覆います。



手首を露出させない

外し方 ※N95マスク以外のPPEは病室を出る前か前室で外す。

1 手袋を外す。



外側をつまんで片側の手袋を中表にして外し、まだ手袋を着用している手で外した手袋を持っておく。手袋を誤いだ手の指先を、もう一方の手首と手袋の間に滑り込ませ、そのまま引き上げるようにして脱ぐ。2枚の手袋をひとつとまとりとなった状態でそのまま廃棄する。

外したら手指衛生を行う



2 ゴーグル・フェイスシールドを外す。

外側表面は汚染しているため、ゴムひもやフレーム部分をつまんで外し、そのまま廃棄、もしくは指定の場所へ置く。

ゴーグル



フェイスシールド



3 ガウン・プラスチックガウン・エプロンを外す。



プラスチックガウン*
両手でガウンの肩付近を持ち、左右に引っ張り裂く。腕を抜き、生地の内側を反転させてきれいな面を表面にする。初めに引き、覆ひもを引きさき、ガウンの外側には触れないようにして最後に小さく丸めて廃棄する。

エプロン
首の後ろにあるミシン目を引き、覆ひもの高さまで持ち上げ、外側を中にして折り込む。左右の裾を覆ひもの高さまで持ち上げ、外側を中にして折り込む。後ろの覆ひもを切り、小さく丸めて廃棄する。

4 サージカルマスク・N95マスクのゴムやひもをつまんで外し、マスクの表面には触れずに廃棄する。



ガウン
ひもを外し、ガウンの外側には触れないようにして首や肩の内側から手を入れ、中表にして脱ぐ。小さく丸めて廃棄する。



外したら手指衛生を行う



最後にもう一度手指衛生を行う

*プラスチックガウンの本体色については各施設の二次利用を参照します。©セラマ株式会社

上着とズボンを使用した個人防護具（PPE）の着脱の手順例

資料2-3

1 防護具の付け方

		
防護衣を着る。	ズボンを履く。靴を脱いでズボンが床に付かないように履く（椅子を用いてもよい）	上着を着る。
		
上着のファスナを閉め、首のマジックテープを留める。	N95 マスクを装着する。鼻あてを上にしてマスクが顎を包むように被せる。	マスクを押さえながら、上ゴムバンドを頭頂部付近に、下ゴムバンドを首の後ろにかける。
		
両手でマスク全体をおおい、息を強く出し空気が漏れていないかユーザーシールチェックを行う。	ゴーグルをつける。ゴーグルが顔にフィットするように調整する。	帽子またはヘルメットを被る
		
手袋の手首部分をつかんで留める。2重に重ねて使用する場合は、インナー（内側）手袋は、防護衣の下（内側）につける。	アウター（外側）手袋は防護衣の上（外側）につける。	防護衣の袖を手袋で覆う。

2 防護具のはずし方

		
手袋の上から手指消毒を行う。	2重手袋の使用では、外側（アウター）の手袋を脱ぐ。	上着を脱ぐ。マジックテープ、チャックを開く。皮膚や制服に触れないように脱ぐ。
		
上着を脱ぐ。肩から脱ぎ、後手に片方の手を脱ぎ、もう片方の手を脱ぐ。（腕を前で交差させない）	中表に裏返ししながら丸めるように脱ぎ、感染性廃棄容器に廃棄する。	インナー手袋を脱ぐ。
		
手指消毒を行う。	ズボンを脱ぐ。中表に裏返ししながら脱ぐ。	手指消毒を行う。
		
ゴーグルをはずす。ゴーグルは汚染された前面には触れないで、頭の後ろのゴムひもを引っ張って外す。	マスクをはずす。マスクは汚染された前面に触れないで、首の後ろのゴムバンドからはずす。次に頭頂部のゴムバンドをはずす。	新型インフルエンザ等で使用したマスクは、廃棄する。手指消毒を行う

移送に際しての注意点・確認事項

移送の依頼 年 月 日 :

引き継ぎ終了 :

【移送前の確認事項】

移送患者

氏名:

年齢:

性別:

発症日: 年 月 日

移送先の医療機関
()

同乗者
無 ・ 有()

【移送中の注意事項】

- 車内の換気
- 1処置1消毒(もしくは手洗い)
- 自分の顔を触らない
- 対面に立たない

【移送時の確認事項】

発熱 ()°C

咳嗽

鼻汁・鼻閉

息苦しさ

呼吸困難

頭痛

嘔気・嘔吐

下痢

わかれば

SpO₂ ()%

呼吸数 ()回/分

血圧 (/)

【救急搬送を行う場合の目安】

以下の場合、基本的に救急搬送が必要

- 呼吸が荒い(呼吸回数が速い)
- 顔色が悪い
- 意識がない
- けいれん